

緊急告知!!

い ど
1月10日は
『井戸の日』

- SINCE2001 -

いい い ど
11月10日は
『井戸の日』

- SINCE2006 -

富山県鑿井協会では、これまで独自に2001年より1月10日を『井戸の日』と制定し、井戸・地下水の重要性について県民の皆様認識を高めていただくことを目的に毎年1月10日に記念イベントを開催してまいりました。その『井戸の日』

でありましたが、誠に勝手ながら来年2006年からは11月10日を『井戸の日』といたしますことを皆様にご報告申し上げます。これまでの1月10日の記念フォーラムの開催を心待ちにしておられました皆様方には大変ご迷惑をおかけいたします。

又、来年度からの『井戸の日』は(社)全国鑿井協会北陸支部の事業として普及啓発事業を推進し、全国に発信してまいります。今後とも新しく、そしてパワーアップして生まれ変わります『井戸の日』に皆様の大きなご声援をお送り下さいますよう心よりお願い申し上げます。

2005年

十二月吉日



研修会場内

の様子

(於：サンシップとやま)



協会ミニブース
の設置

〔井戸110番・(株)興和〕



十月十二日(水)午後二時よりサンシップとやまにて県市町村技術職員向けの研修会が県庁土木部主催のもと開催されました。この度、私共の協会では会員より三名(土合拓也、土肥勝則、土合一弘)を派遣する事と決定し、研修会の第二部(午後三時五十分～四時五十分)において、『環境にやさしい井戸づくりと維持管理』というテーマで講師を勤めさせていただきました。テキストには協会作成の『改訂・井戸管理マニュアル』や『協会パンフレット』を使用し、参加者の皆様にわかりやすく、かつ丁寧な説明を心がけ鑿井工事に関して熱く語りさせていただきました。場内九十名程の多くの参加者の方々の面前にて講義させていただくという大変貴重な機会を与えていただき、感謝の思いでいっぱいでありました。

又、会場の後部では協会ミニブースを開設いたしました。『井戸110番』(相談コーナー)を設け、質問・相談に応じさせていただきました。又、(株)興和にご協力いただき、小型電気検漏器等について紹介いただきました。

この研修会を機に、ますます緊張感を持って鑿井業の普及に広く取り組んでいきたいとの強い気持ちを協会員一同胸に抱きました。

平成17年度懇親会・第10回TSAG杯報告

平成17年11月18日(金)午前10時2分より太閤山ントリークラブにおいて第10回TSAG杯が開催されました。当初、天気予報では悪天候が伝えられておりましたが、それとは裏腹に澄みわたった温かい木漏れ日のような秋空の下、そして、紅葉した木々の立ち並ぶ中参加者14名にてコンペを開催致しました。見事優勝されました栗本商事㈱のK氏には優勝カップが授与されました。

また、同日午後6時30分より富山第一ホテルにて富山県鑿井協会懇親会『秋の宴』が開催されました。内山会長より来年度から開催の『井戸の日』が変更となる旨発表がありました。会員・賛助会員総勢20名の参加があり、親睦を深めました。



(乾杯の様子 於：富山第一ホテル)

水にまつわるいい話

「おいしい水道水」

(株)ホクコク地水富山営業所 南 武志 氏

富山県内ではあまり聞かれないと思いますが、水道水がおいしくないと言う声はよく聞かれる話です。旧厚生省「おいしい水研究会」の報告によれば、ミネラルや遊離炭酸の溶けた割合から判断すると、日本のほとんどの地域の水道水はおいしいはずだそうです。ところが実際には関東や近畿などの大都市圏、人口にすると約30%の人の口に入る水道水は有機物やカルキ臭などによってまずくなっているそうです。

研究会によると水の味をおいしくする要素として「蒸発残留物」、「硬度」、「遊離炭酸」が、水の味を損なう要素として「過マンガン酸カリウム消費量」、「臭気度」、「残留塩素」が、また「水温」は水をおいしく飲む要素としてあげられています。一般に水道水がおいしくないとされるのは水道原水のなかで植物プランクトンが異常発生してかび臭くなる場合やアンモニア性窒素濃度が増加して塩素注入量が多くなる場合があり、要するに水道原水、河川や湖沼の汚れや富栄養化が原因と考えられています。

研究会の委員が人口10万人以上の都市で水道水がおいしいと支持した都市は全国で32市北陸では富山、高岡、金沢、福井などが上げられたそうです。これからも富山のおいしい水を飲み続けるためにも河川をきれいにするだけでなくとどまらず、地下水の涵養源となる田畑、山林、都市部などすべての地域の環境を守る必要があります。

【編集後記】

2005年も残すところあとわずかとなりました。今年は協会設立10周年、ゴルフコンペTSAG杯第10回の開催等があり、節目の年となっております。その中でもこれまで1月10日に開催しておりました『井戸の日』が今年で終幕となり、来年からは11月10日開催のパワーアップした新『井戸の日』に変わります。新たな『井戸の日』に皆様のご声援・ご支援をよろしく願っています。(総務部会)

(社)全国鑿井協会北陸支部臨時総会報告

平成17年11月2日(水)午後1時30分より石川県土質研究協同組合会議室において(社)全国鑿井協会北陸支部平成17年度臨時総会が開催されました。8件の議案について審議・承認されました。

- 第1号議案 (社)全国鑿井協会 第94回理事会報告
- 第2号議案 平成17年度上半期会務及び事業実施状況報告
- 第3号議案 平成17年度上半期収支経理状況報告(4~9月)
- 第4号議案 正会員退会報告
- 第5号議案 役員補充の件
- 第6号議案 平成17年度事業計画及び予算(事業費)

一部変更承認の件

支部長は、17年度事業として3委員会を設置し、企画委員会で『井戸の日』、技術委員会で「さく井技術管理者

※1 講習」を実施する旨説明。各委員長より事業計画について報告。全員異議なく承認。

*事業『井戸の日』〔企画委員会報告〕

11月10日(いい井戸)とする。来年度実施のPR費ポスター・チラシ等作成

*さく井技術管理者講習

実施は役員会で承認されているが、内容について11月12日に説明会を開催することに了承。

第7号議案 支部規定一部改訂に関する件

第8号議案 その他

※1 さく井技術管理者講習〔創設の目的〕。。現制度のさく井技能士資格は実務経験がなくても資格の取得が可能となっている。このような現状を踏まえ、地下水に携わる技術者のレベルアップを行うことを目的に創設する。

(社)全国鑿井協会臨時総会報告

平成17年10月13日(木)名古屋市メルパルクNAGOYAにおいて(社)全国鑿井協会平成17年度臨時総会が開催されました。250社の参加があり、4件の議題について審議・承認されました。

その後、立命館大学客員教授・(財)リバーフロント整備センター理事長の竹村公太郎氏による講演『日本文明を支える水循環』が行われました。竹村氏より「日本の文明は下部構造に支えられており、近代文明は治水から始まっている。日本に降る雪は自然のダムに溜まった水資源であるが、21世紀は地球温暖化によりなくなってしまうかも知れない。すると米作りができなくなる。したがって、ダムはきちんと整備する必要がある。また、食料とエネルギーの自給国家にならなければならない。日本の川の水は3~4日で海に達する。その結果急流となる。そのエネルギーを利用しなければならない」と熱弁いただいた。翌14日にはゴルフ組みと観光組みに分かれ、それぞれに親交を深めました。

—(社)全国鑿井協会HPより引用—